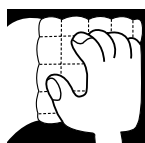
Pioneer sound.vision.soul

S-W1EX　パワード　サブウーファー　取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口·修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

お手入れについて

柔らかい布で乾拭きしてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サブウーファーご使用時のエチケット

サブウーファーは耳に聞こえにくい超低音を再生します。超低音は壁や床を通して漏れていきますので、音量には十分気を配ってください。

安全上のご注意　付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

⚠ 警告 [異常時の処置]

プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災·感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

禁止

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。
また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

プラグを抜け

● 機器本体の電源 (POWER) スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ (遮断装置) を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全の為必ず電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

● 電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ (遮断装置) を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ (遮断装置) に容易に手が届くように設置してください。

特　長

■ ダイナミックレンジの大きいドルビーデジタル*などの映画ソフト再生に追従する500Wのハイパワー。

■ PWM方式による高効率D級アンプを搭載。

■ クロスオーバー周波数連続可変(50～150Hz)。

■ 位相切換スイッチ（0°/180°）。

■ アンプのスピーカー端子に接続する入力と、サブウーファー用プリアウト端子に接続する入力の2系統。

■ 30 cmウーファーとパッシブラジエーターによる迫力の重低音。

■ 2台目も簡単に接続できる、LINE LEVEL OUTPUT端子付き。

■ バスマネージメント**機能を最大限に活かすフィルターバイパス機能付き。

■ ソースに柔軟に対応するため、BASS MODE セレクター SWを搭載。(MUSIC/CINEMAを選択可能)

■ 天然木材を使用して、色の深みや艶を出すなどの高級感あふれる仕上げを施したキャビネット。

ご注意

● 天然木材を使用しているため、同じ柄のものは2つと存在しません。本機を2台以上お使いになる場合は木目が必ずしも合わないことがありますが、ご了承ください。

ご使用の前に

付属品の確認

● スパイク X4

● ベース ×4

● 電源コード X1

● RCAピンコード X1

● アースコード X1

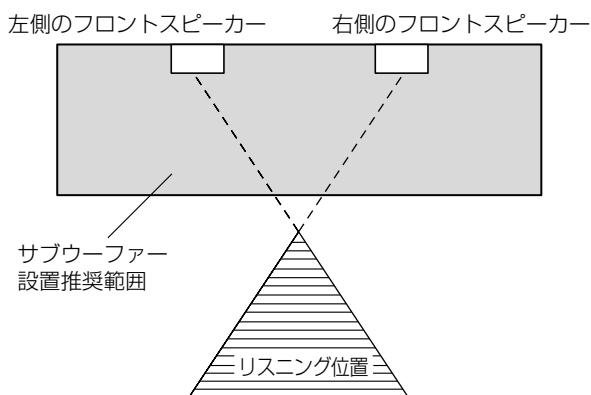
● 取扱説明書（本書） X1
● 安全上のご注意 X1
● 保証書 X1

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

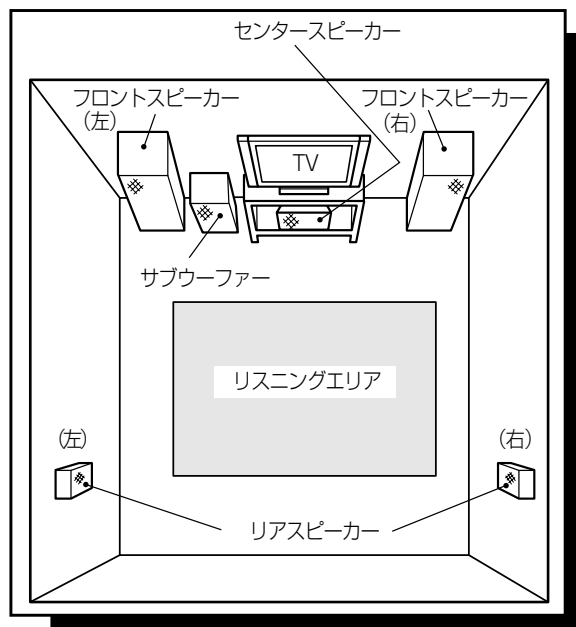
** 「バスマネージメント」とは、サラウンド再生時にサブウーファー以外のチャンネルの低域成分を抜き取り、それを1チャンネルにミックスしてサブウーファーチャンネルに振り分ける技術の名称です。

設 置

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向がわかりにくくなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。そのため、設置場所はかなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くとサブウーファー以外のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

- サブウーファー正面をリスニング位置に向けてください。

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、下図のようなスピーカーの設置をお勧めします。

【設置例】

- テレビの近くに設置するスピーカーは防磁型のものをお使いください。
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- リア（サラウンド）スピーカーはリスナーの真横または少し後方で、耳の位置から約1m位上方に水平方向に設置すると効果的です。

設置上の注意

本機を設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25cm以上、後面15cm以上、右側、左側各10cm以上)。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良や故障の原因になります。また、十分な低音が再生できないことがあります。

スピーカーの上には物をのせないでください。置いた物が振動によって倒れたり、落下してけがの原因になる場合があります。

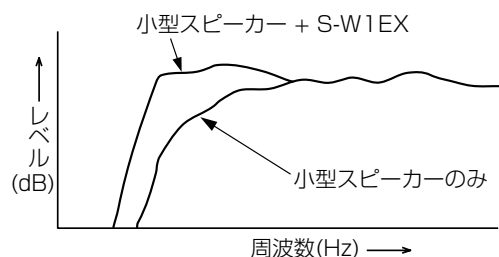
次のような場所には設置しないでください

- ■ 直射日光の当たる場所、暖房器具に近い場所。
- ■ 風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
- ■ 振動や傾斜のある、不安定な場所。
- ■ アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
- ■ カセットデッキなど、磁界に影響される機器の近く。

チューナーのアンテナケーブルから離して設置してください

近くに置いた場合に雑音が出ることがあります。このようなときはアンテナやアンテナケーブルから本機を離してご使用になるか、やむを得ない場合は本機の電源を切ってください。

スピーカーシステムとの組み合わせ

- S-W1EXを小型スピーカーシステムと組み合わせると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

- ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にLFE（Low Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音）の再生に対してS-W1EXは有効です。

＊ドルビーデジタルについて

ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。
ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。
LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

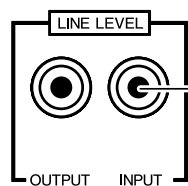
接続のしかた

機器の接続や変更を行う場合は、必ず本機とアンプ両方の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

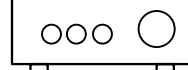
A

S-W1EX（後面パネル）

LINE LEVEL

OUTPUT INPUT

付属のRCAピンコード

SUB WOOFER PREOUT

アンプ

B

アンプのスピーカー端子

スピーカーコードを1つの端子に2本ずつ接続する

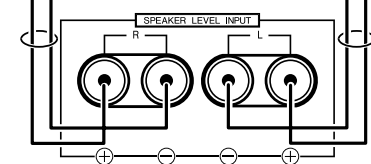
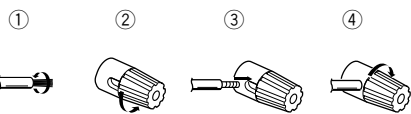
右スピーカーシステムへ

左スピーカーシステムへ

スピーカーコード

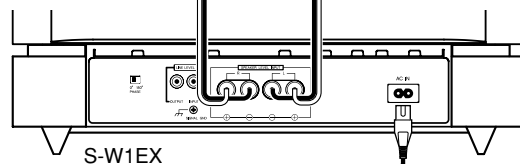
SPEAKER LEVEL INPUT

S-W1EX

① ② ③ ④

アンプ

右スピーカーシステム

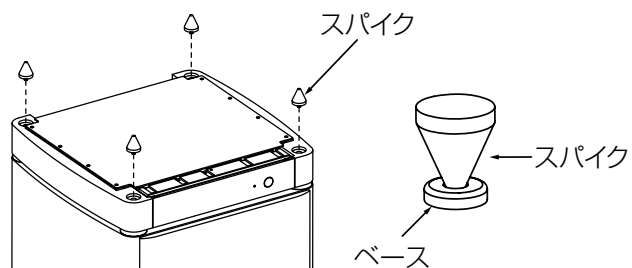
左スピーカーシステム

C

S-W1EX

電源コード

壁のACコンセント

サブウーファーにスパイクを取り付ける

サブウーファーの底面（4ケ所）に、付属のスパイクをネジ式になっているのでまわして取り付けてください。また、フローリングの床などに設置する場合は、スパイクと床の間に、ベースを置くことをおすすめします。

ラインレベルの接続（図 A）

アンプにサブウーファー用のプリアウト端子がある場合の接続です（この端子が無い場合は「スピーカーレベルの接続」を参照してください）。
付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。サブウーファー以外のチャンネルに小型スピーカーを使用する場合、アンプのバスマネージメント機能を使用するとサブウーファー以外のチャンネルの低音域を本機が代わりに再生するため、大型スピーカー並の豊かな低音を再生することができます。
LINE LEVEL OUTPUT端子が付いているので2台以上のパワードサブウーファーを接続することができます。このとき、すべてのサブウーファーのフェーズスイッチを同じ位置にそろえて使用してください。

ご注意

アンプの、サラウンド・センターチャンネル用のプリアウト端子と接続すると、センターチャンネルのみの低音となり、十分な低音が得られません。

スピーカーレベルの接続（図 B）

アンプのスピーカー端子を使う接続です。

ご注意

- 本機の電源を切る前に、アンプの電源を切るとショック音を発生することがあります。その時はサブウーファーの音量を下げるか、本機の電源を切ってください。
- 「スピーカーレベルの接続」では、サブウーファーの音量を非常に大きく設定した場合、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにするとハウリングを起こすことがあります。これを防止するには、サブウーファーの音量を下げるか、アンプの電源を切る前に本機の電源を切ってください。また、本機を大音量で使用しているときは、アンプのスピーカースイッチをオフにしないでください。
- アンプ側で低音を増強するのは避けてください。アンプの出力に余裕がないと、音が歪みやすくなります。低音は本機で調節してください。
- LINE LEVEL INPUT端子を接続すると、SPEAKER LEVEL INPUT端子は使用できません。

アンプのスピーカー端子に、左右のスピーカーの接続と同時に本機を接続します。

1. **市販のスピーカーコードを本機のSPEAKER LEVEL INPUT端子と接続し、反対側を左右のスピーカーシステムからのスピーカーコードの一端と芯線を束ね、アンプのスピーカー端子に接続します。**
   - L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。

ご注意

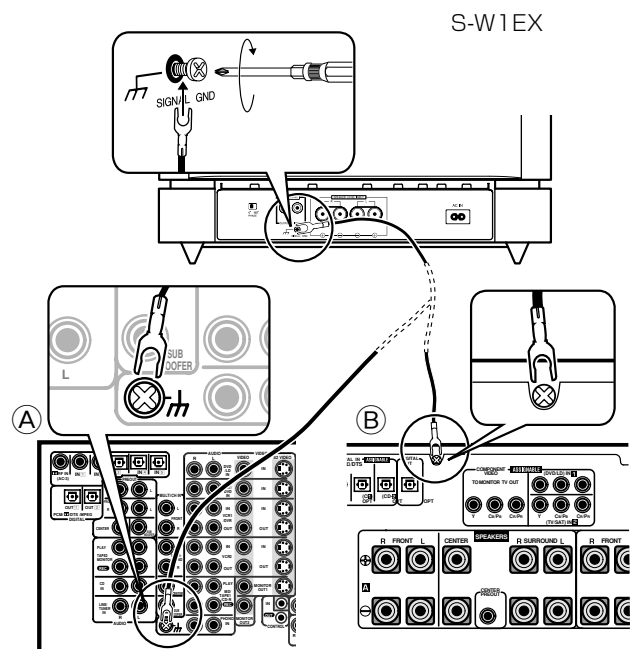
アンプに2組のスピーカー端子(A、B)がある場合、本機を空いている端子に接続して、スピーカースイッチで"A + B"を選択する方法があります。ただし、使用するアンプによっては左右のスピーカーから音が出なくなることがあります（スピーカースイッチで"A + B"を選択したとき、AとBが直列接続になる構造のアンプの場合）。

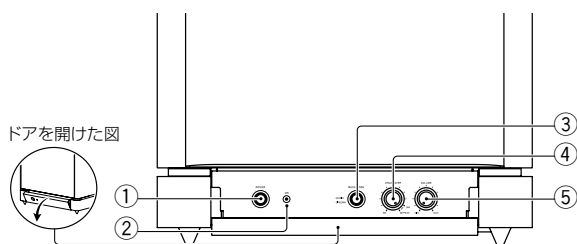
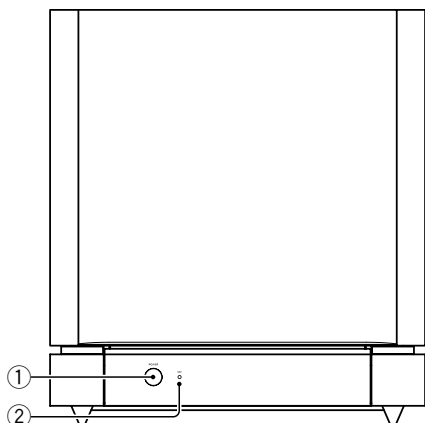
電源コードの接続（図 C）

アンプと本機の電源コードを本体のACインレットと壁のコンセントに差し込んでください。電源スイッチを入れる順番は、アンプを先に、本機をあとにしてください。

シグナルグランド端子の接続

LINE LEVEL INPUT端子を接続して使用する場合は、アースコードの接続はしないでください。

- ■ スピーカー端子と接続して使用した際にハム音(ブーンとうなるような音)が出る場合には図Ⓐのように本機のシグナルグランド端子とレシーバー/アンプを、付属のアースコードで接続してください。
- ■ レシーバー/アンプ側にシグナルグランド端子(GND)がない場合は、図Ⓑのようにレシーバー/アンプ背面(リアパネル)の、トップカバーを取り付けているネジをご利用ください。

各部の名称と使い方

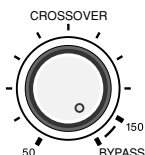
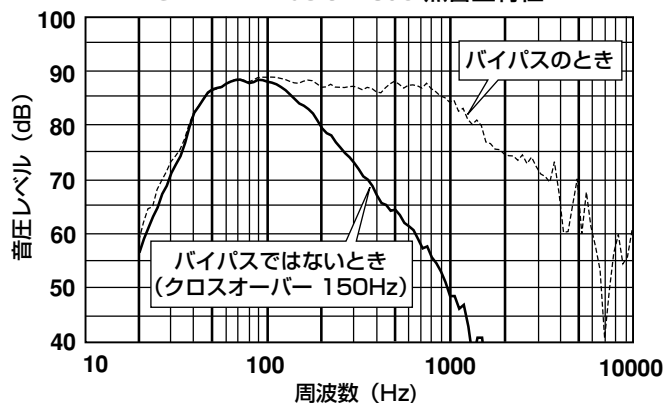
前面パネル

① 電源ボタン(POWER)
電源がオンになります。もう一度押すと、電源がオフになります。

② パワーオンインジケーター(ON)
電源がオンのとき、インジケーター(緑)が点灯します。

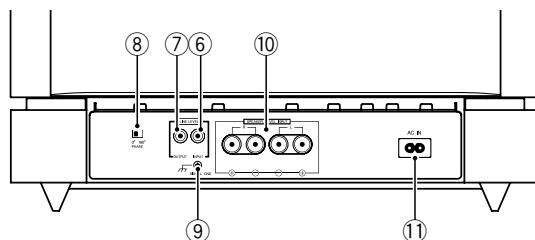
③ バスモードスイッチ(BASS MODE)
▮ MUSIC ：周波数特性がほぼフラットになります。主に音楽ソースをお楽しみになるときにお勧めします。
▂ CINEMA：低い周波数帯域が強調されます。低音の迫力が必要な映画ソフトを再生するときにお勧めします。

④ クロスオーバーつまみ(CROSSOVER)
サブウーファーが再生する上限周波数を設定するつまみです。組み合わせるスピーカーに応じて上限周波数を設定してください。(50Hz〜150Hz)。AVアンプのバスマネージメント機能をご使用になるときは、**バイパス(BYPASS)***に設定してAVアンプのローパスフィルターを使用する方が高音質の低音が得られます。

- 設定の目安
  50Hz ：左右スピーカーの口径が20cm以上の場合。
  100Hz：左右スピーカーの口径が10〜25cmの場合。
  150Hz：左右スピーカーの口径が12cm以下の場合。

* バイパスにする(「カチッ」と音がするまで右に回す)と、本機のアンプのフィルターを通さずに音声信号を直接ウーファーユニットに入力することができます。

⑤ ボリュームつまみ(VOLUME)
サブウーファーの音量を設定します。

- 最小(MIN)位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、ステレオアンプ側で低音の増強をしないでください。

後面パネル

⑥ ラインレベルインプット端子(LINE LEVEL INPUT)
サブウーファー用のプリアウト端子付のアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

⑦ ラインレベルアウトプット端子(LINE LEVEL OUTPUT)
本機を経由して、他の機器に接続するときに使用します。この端子からの出力信号は、本機のつまみ類の影響を一切受けません。

⑧ フェーズスイッチ(PHASE 0°/ 180°)
スイッチを右側にすると(180°)入力信号に対し出力の位相を逆にします。スイッチを左側にすると(0°)同位相になります。

- 通常は 0°で使用しますが、サブウーファーと左右スピーカーの音のつながりが不自然に聞こえる場合に切り換えてみて、自然に聞こえる方に設定してください。
- 2台以上のパワードサブウーファーを接続する場合、すべてのサブウーファーのフェーズスイッチを同じ位置にそろえて使用してください。

⑨ シグナルグランド端子(SIGNAL GND)
5ページの“シグナルグランド端子の接続”をお読みください。

⑩ スピーカーレベルインプット端子(SPEAKER LEVEL INPUT)
アンプのスピーカー出力端子と、市販のスピーカーコードで接続します。

⑪ 電源コード接続端子(AC IN)
電源コードを接続します。

使い方

1. **電源ボタン①を押します。**
   - 電源を入れるときは、アンプの電源をオンにしてから本機をオンにしてください。電源を切るときは、本機の電源をオフにしてから、アンプをオフにしてください。
2. **アンプを操作して音を出し、本機以外のスピーカーの音量を調整します。**
3. **ボリュームつまみ⑤で低音の大きさを調整します。**
   - 必要に応じてクロスオーバーつまみ④とフェーズスイッチ⑧を操作し、さらにボリュームつまみ⑤で調整してください。また、お好みによってバスモードスイッチ③でMUSICとCINEMAを切り換えてください。
4. **使用後は電源ボタン①を押してオフにします。**
   - パワーオンインジケーターが消灯します。

⚠ 注意

● パワーオンインジケーターが消灯している状態でも、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全の為必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

仕 様

アンプ部

最大出力……500 W (PEAK)
実用最大出力(100 Hz、10 %、4 Ω) ….. 250 W (JEITA)
入力端子(感度 at 100 Hz/インピーダンス)
LINE LEVEL …… 160 mV/50 kΩ
SPEAKER LEVEL …… 1.6 V+1.6 V/15 kΩ
出力端子(レベル at 100 Hz/インピーダンス)
LINE LEVEL …… 160 mV/1 kΩ
クロスオーバー周波数 ……50～150 Hz（連続可変)
位相切換……0°/180°（切換)

スピーカー部

形式 ……パッシブラジエータ方式フロアー型（低磁気漏洩)*
スピーカー
ウーファー……30 cmコーン型
パッシブラジエーター ……30 cmコーン型
再生周波数帯域 …… 25Hz～4000Hz(バイパス時)
音源位置…… バッフル面から90 mm後方

電源部・その他

電源 …… AC100 V、50/60 Hz
消費電力……56 W
外形寸法…… 430（幅）X 480（高）X 430（奥行）mm
質量 ……34.5 kg

付属品

ベース ……4
スパイク……4
電源コード……1
RCAピンコード（3 m） ……1
アースコード（3 m） ……1
取扱説明書……1
安全上のご注意……1
保証書 ……1

● 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

＊ 低磁気漏洩設計ですのでテレビに近づけて使用できますが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

はパイオニア(株)の開発したPHASE CONTROL技術を用いて低域の遅れのない高品位5.1chサラウンドを実現した製品に付与される商標です。

故障かな？と思ったら

故障かな？....と思ったら、ちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具もあわせてお調べください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 (パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。)	● 電源コードが正しく接続されていない。	● プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 (インジケーターは緑に点灯する。)	● VOLUMEつまみがMIN位置になっている。 ● スピーカーコードまたはRCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。	● VOLUMEつまみをゆっくり右に回してください。 ● 接続を確認し、正しく接続してください。
VOLUMEつまみを回しても音が大きくならない。	● スピーカーコードの極性（本機とアンプの間の接続の＋/－）を逆に接続している。	● 極性＋/－を確認し、正しく接続してください。
音が歪む。	● 音量が大きすぎる。 ● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの出力に余裕がなく、アンプ側で音が歪んでいる。	● VOLUMEつまみを左に回し、音量を下げてください。 ● アンプ側で低音の増強をしないでください。
発振する (大きな音が連続的に出る) 。	● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにした。 ● 本機の音量が大きすぎる。	● アンプの電源をオンにする、またはスピーカースイッチをオンにしてください。 ● 本機を先にオフにしてから、オフにしてください。 ● VOLUMEつまみを左に回し、音量を下げてください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

上記に従って調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：パワード　サブウーファー
- 型番：S-W1EX
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■保証期間中は：
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■保証期間が過ぎているときは：
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、上記の修理受付センターでお受けします。
（沖縄県の方は沖縄サービスステーションでお受けします）

●認定店は、不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は、修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

店名	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX 011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北２条西 20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町１条１丁目 438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西５条南 28 丁目 1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町 2-18-7

●東北地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

店名	FAX	〒	住所
☆仙台サービスステーション	FAX 022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈石田 20
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波 1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原 153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田 2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野 4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目 346-1
郡山サービス認定店	FAX 024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦 1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第２ビル 1F D 号

●関東・甲信越地区（１）

受付　月〜土　９：３０〜１８：００（日・祝・弊社休業日は除く）

店名	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢 4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原 4-27-9　中島 IC ハイツ 1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸 4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町 4-18-1　エクセル立川１Ｆ

●関東・甲信越地区（２）

受付　月〜金　９：３０〜１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

店名	FAX	〒	住所
新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙 1-5-23
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種 1158-1
☆千葉サービスセンター	FAX 043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町 1369-1　椎の実ハイツ 1F
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園 2-2-6
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町 307-4
☆埼玉サービスセンター	FAX 048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町 1-310-1
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷 1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町 3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町 1191-17　パサージュ 808 伊勢崎 101号
☆神奈川サービスセンター	FAX 045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南 1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田 339-1　金田コーポフロンテア 201
三宅島サービス指定店　勝見電機	TEL 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX 0263-48-2768	〒390-0852	松本市大字島立 180-5
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所 1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田 4-9-14

●中部地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

店名	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX 052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切 2-8-18
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水 522-5
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田 36-1　大和ビレッジ　B-1
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東 1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市駿河区高松 1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢 12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町 415　ビラモデルナ５号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362	金沢市古府１丁目 178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町 1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺 3-5-9

●関西地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

☆大阪サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052　吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322　堺市津久野町1-8-15　ローズマンション1F
大阪北サービス認定店	FAX	06-6453-5666	〒531-0076　大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132　奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0021　和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション	FAX	075-352-2588	〒600-8322　京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055　福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093　神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224　姫路市別所町佐土4-2

●中国地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

☆広島サービスステーション	FAX	082-248-9939	〒730-0041　広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006　周南市花畠町3-11　森広事務所1F
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815　福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション	FAX	086-244-8748	〒700-0975　岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017　松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX	0857-29-1290	〒680-0061　鳥取市立川町5-240-1

●四国地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）

高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078　高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023　徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下１階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051　高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル１Ｆ
松山サービス認定店	FAX	089-951-6270	〒791-8067　松山市古三津5-10-35　商船ビル１Ｆ

●九州地区

受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付 ９：３０〜１２：００、１３：００〜１８：００（弊社休業日は除く）

☆福岡サービスステーション	FAX	092-412-7460	〒812-0016　福岡市博多区博多駅南2-12-3
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006　福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145　長崎市昭和１丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918　熊本市花立５丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-549-2420	〒870-0851　大分市大石町５丁目1-1
北九州サービスステーション	FAX	093-951-1748	〒802-0011　北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX	099-224-7692	〒892-0841　鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル２Ｆ
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821　宮崎市浮城町98-1

●沖縄地区（沖縄県のみ）

受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービスステーション	TEL	098-879-1910	〒901-2122　浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター３Ｆ
	FAX	098-879-1352	

平成１７年５月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　　VOL.013

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名 ②ご購入日 ③ 故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●パイオニアホームページ　：お客様サポート　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン ００７０－８００－８１８１－２２
一般電話　【一般電話】０３－５４９６－２９８６

●ファックス受付　０３－３４９０－５７１８

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９５　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１９：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２８（ゴーバイオニア）　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　０９８－８７９－１９１０　ファックス　０９８－８７９－１３５２

VOL.013

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<SRA6004-A>